

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 3 部門第 2 区分
【発行日】令和 2 年 2 月 20 日 (2020.2.20)

【公開番号】特開 2018-111659 (P2018-111659A)
【公開日】平成 30 年 7 月 19 日 (2018.7.19)
【年通号数】公開・登録公報 2018-027
【出願番号】特願 2017-2577 (P2017-2577)
【国際特許分類】

A 6 1 K 8/891 (2006.01)

A 6 1 Q 5/06 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 8/891

A 6 1 Q 5/06

【手続補正書】
【提出日】令和 2 年 1 月 10 日 (2020.1.10)
【手続補正 1】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項 1】

(A) 融点 50～120℃の固形油分および／または油性ゲル化剤 3～40 質量%、(B) 油溶性樹脂 1～15 質量%、(C) 揮発性油分 5～60 質量%、(D) HLB 値が 5～11 である非イオン性界面活性剤 0.1～10 質量%、(E) 粉体 3～70 質量%および (F) 不揮発性油分 0～10 質量%を含有してなり、前記 (F) 成分と (B) 成分の割合 [(F) / (B) (質量比)] が 1 以下であることを特徴とする油性毛髪着色料。

【請求項 2】

前記 (B) 成分が、シリコーン系樹脂、ロジン酸系樹脂、キャンデリラ樹脂、ポリ酢酸ビニル系樹脂およびポリビニルイソブチルエーテルから選択される少なくとも 1 つである請求項 1 に記載の油性毛髪着色料。

【請求項 3】

前記 (D) 成分が、25℃で固体状であり、HLB 値が 6～10 である非イオン性界面活性剤、または 25℃で液状であり、HLB 値が 6～8 である非イオン性界面活性剤である請求項 1 または 2 に記載の油性毛髪着色料。

【請求項 4】

前記 (D) 成分が、25℃で固体状であり、HLB 値が 6～10 である非イオン性界面活性剤を少なくとも 50 質量%の割合で含むものである請求項 1 または 2 に記載の油性毛髪着色料。

【請求項 5】

前記 (F) 成分の割合が、全組成に対して 0.1～8 質量%である請求項 1～4 のいずれかに記載の油性毛髪着色料。

【請求項 6】

前記 (E) 成分が、着色顔料と体質顔料の混合物である請求項 1～5 のいずれかに記載の油性毛髪着色料。

【請求項 7】

前記 (B) 成分が、シリコーン系樹脂である請求項 2 に記載の油性毛髪着色料。

【請求項 8】

前記（D）成分が、ポリグリセリン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンアルキルエーテル、脂肪酸ポリオキシエチレンアルキルエーテル、ポリオキシエチレン脂肪酸グリセリル、脂肪酸ポリオキシエチレン硬化ヒマシ油、ポリオキシエチレンソルビタン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンコポリマー、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレンコポリマーと長鎖アルコールとのエーテル、およびポリブチレングリコールポリグリセリンコポリマーと長鎖アルコールのエーテルから選択される少なくとも一つである請求項1～7のいずれかに記載の油性毛髪着色料。

【請求項9】

H L B 値が 1 1 を越える非イオン性界面活性剤、アニオン性界面活性剤、カチオン性界面活性剤および両性界面活性剤から選ばれる親水性界面活性剤を含む場合には、該親水性界面活性剤の含有量が全組成中 2 質量% 以下である請求項 1～8 のいずれかに記載の油性毛髪着色料。

【請求項10】

前記（C）成分が、常圧における沸点 6 0℃～2 6 0℃を有しており、且つ、環状シリコン油、シリコン油、および炭化水素油から選択される少なくとも一つである請求項 1～9 のいずれかに記載の油性毛髪着色料。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

（B：油溶性樹脂）

（B）成分の油溶性樹脂は油性成分に溶解するものであり、揮発性油分が揮発した後に毛髪上に皮膜を形成する。この成分を含むことによって（E）成分の粉体が毛髪に固着しやすくなる。油溶性樹脂は、通常、化粧品に使用されるものであれば特に制限されず、その具体例として、たとえば、トリメチルシロキシケイ酸、部分架橋オルガノポリシロキサン、トリ（トリメチルシロキシ）シリルプロピルカルバミド酸プルラン、ポリメチルシルセスキオキサン、ポリプロピルシルセスキオキサン、フッ素変性シリコーン、アクリル変性シリコーン、シリコーンデンドリマー変性樹脂化合物等のシリコーン系樹脂；水添ロジン酸ペンタエリスリット、水添アビエチン酸グリセリル等のロジン酸系樹脂；キャンデリラ樹脂、ポリ酢酸ビニル系樹脂、ポリビニルイソブチルエーテルなどが挙げられる。なお、キャンデリラ樹脂とは、キャンデリラワックスを有機溶剤にて分別抽出して得られる樹脂分であって、樹脂分含量が好ましくは 6 5 質量% 以上、更に好ましくは 8 5 % 質量以上のものである。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 4 0】

本発明で用いられる不揮発性油分は、通常の化粧品に用いられるものであればとくに制限されず、動物油、植物油、合成油のいずれであってもよい。不揮発性油分の具体例としては、トリエチルヘキサノイン、リンゴ酸ジイソステアリル、イソステアリン酸ポリグリセリル-2、トリエイソステアリン酸ジグリセリル、デカイソステアリン酸デカグリセリル、ダイマー酸とダイマージオールとのオリゴマーエステル、テトライソステアリン酸ペンタエリトリット、テトライソステアリン酸ジグリセリル、イソオクタン酸セチル、ミリスチン酸イソプロピル、パルミチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ジオクタン酸ネオペンチルグリコール、コレステロール脂肪酸エステル、ホホバ油等のエステ

ル類； ポリブテン、重質流動イソパラフィン、流動パラフィン、 α -オレフィンオリゴマー、スクワラン、ワセリン、ポリイソブチレンの炭化水素類； オリーブ油、ヒマシ油、ミント油、マカデミアンナッツ油等の油脂類； イソステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸類； オレイルアルコール、イソステアリルアルコール等の高級アルコール類； 低重合度ジメチルポリシロキサン、高重合度ジメチルポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、架橋型オルガノポリシロキサン、フッ素変性ポリシロキサン等のシリコーン油類； パーフフルオロポリエーテル等のフッ素系油剤類； ラノリン、酢酸ラノリン、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラノリンアルコール等のラノリン誘導體類； 等が挙げられる。また、(F)成分の不揮発性油剤は、HLB値が5未満の常温で液状またはペースト状の非イオン性界面活性剤であってもよい。